[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日　2007年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4790900015
法人名	医療法人　松風会
事業所名	グループホーム　ひだまり
所在地	沖縄県名護市大西3丁目19番42号 （電　話）0980－53－1155

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	那覇市首里石嶺町4丁目373－1
訪問調査日	平成19年10月17日

【情報提供票より】（平成19年9月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成18年　6月　1日	
ユニット数	1 ユニット	9人
職員数	8　人	常勤8人

（2）建物概要

建物構造	RBC造り
	平屋　1 階建ての　1　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	42,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日1,100円			

（4）利用者の概要　（9月20日現在）

利用者人数		9 名	男性	3 名	女性　6 名
要介護1		5　名	要介護2	0　名	
要介護3		4　名	要介護4	0　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	85.1 歳	最低	58 歳	最高　100 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	県立北部病院　金城歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街の中でも自然豊かで閑静な場所にある。小高い盛土に立つホームの住人方が安心して日常生活をおくっている様子は穏やかな顔を通して伝わってくる。設立間もないホームだが管理者はじめ職員の思いは熱く、特に管理者はホーム設立に際し3ヶ月間中央機関で日夜研修研究を重ね、その研修結果と情熱をスタッフに伝え知識を共有している。理念は職員はもとより入居申込者の家族からも意見を聞き創られた。全員参加で創られた理念は堅実に実行され家族との信頼関係を強いものにしている。入居者は広い敷地、広い共用空間の中でそれぞれに適したスタイルでゆっくり過ごしている。玄関アプローチには椅子を配置し、また自家菜園や芝生など家庭で過ごしていた時と同じようにくつろいでもらえるよう工夫が施されている。琉球庭園と銘打った石庭は幽玄壮大であり、入居者は鑑賞だけでなく職員と共に散策や季節の実りを楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 今回がホーム開設後初めての外部評価であり、従って今年度の評価結果を基にして、良質なグループホームを目指し、外部からの気づきや見えてきた課題に取り組む。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 自己評価表を職員全員にコピー配布し、それぞれが主体的に取り組んだ。その後積極的にミーティングを重ね学習し検討しあった。自己評価への取り組みはお互いが学びあう事や日々の振り返りなど更なる質の向上に取り組める動機付けを強める良い機会となっている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議はただいま準備中である。当会議は地域との連携、認知症への理解と協力、外部評価結果等を主な討議内容としていく。地域に密着した親近感、開放感のある会議となるよう家族や近所、及び多方面からの意見が活発に得られるよう自治会や行政の方々にも参加していただく予定である。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 玄関に設置してある意見箱の利用は未だないが家族や来訪者が、意見箱の利用よりも対面で気軽に何でも話してもらえるよう、職員は常に声かけし傾聴している。また当ホーム以外の苦情相談窓口を「外部機関の苦情窓口」として数ヶ所の機関名を詳細に、重要事項説明書に案内明記している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域の保育園、地域の行事などへの積極的な交流を心がけている。地域の中学生が体験学習の一環として戦争中のご苦労話等を聴きに来る。また管理者が介護相談や講習会等を行う予定で市役所への声かけをしており地域に開かれたホームを目指している。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全員参加で創り上げた理念は親近感と自信と自覚があり、確実に実行されている。ホーム名の「ひだまり」は地域の中で認知症への理解、応援、交流等が根付くことを願い、広く地域全体に公募して決定された。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入居者を支援するとき、常に真正面から向き合い、その人らしく活きる力を引き出せるように日々取り組み、実践している。		
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で行われる行事や運動会には必ず参加している。参加だけでなく準備を手伝う等、積極的に関わりを持つようにしている。また、近隣の保育園との交流も積極的に行っている。	○	自治会に入会している。緊急時の協力が得られるよう日頃から積極的に交流を深めるには、外出の機会を捉えて地域の消防署や自治会等にその都度顔を出して馴染みの関係が作れるよう努めてほしい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	テキストブックを事前に購入して自己評価及び外部評価の理解を深めた。また、スタッフで勉強会を開催し、制度の意義を確認しあった。実際に自己評価したことで日々の支援方法に変化も見られ、その成果をスタッフ同士で確認しあっている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の早期開催に向けて準備中である。入居者・家族・行政・地域の意見を運営に活かし更なる質の向上ができるものと期待している。	○	運営推進会議は、ホームがより良いサービスの水準を確保し、向上が図れるよう早期の開催を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の行事（敬老会）等に参加している。また、推進委員会の情報提供及び意見の上申、福祉大会において事業内容の説明を行っている。介護支援専門員連絡会へも参加している。	○	市町村へは、ホームが介護相談を行っていることを伝えている。今後は、定期的に状況報告を行い、行事への招待、行政への相談なども積極的に出向いて関係をさらに深めていけるよう努めてほしい。
4．理念を実践するための体制					
7	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にはホーム内での様子を報告している。また訪問の少ない家族に対しては2ヶ月に1度は、確実に来訪してもらっている。都合のつかない家族へは電話報告、遠方家族へは写真等を送付して家族の絆を深めてもらうようにしている。		
8	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に相談できるように質問を工夫したり、話したくなるような雰囲気作りをしている。日々の面会時はもとよりケアプラン更新時等にも要望、意見を聞き取りしている。		
9	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の安心と平穏を確保するためにも職員が長く勤められるように管理者は日頃から話し合いを多く持つように心がける。	○	職員の異動や離職を最小限に抑える方法や、それに至る前の工夫を日頃からマニュアル化しておき、入居者が動揺しないような配慮をしてほしい。
5．人材の育成と支援					
10	19	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員と管理者は定期的に個別面談をおこなってアドバイスや、仕事に対する意見、スキルアップに繋がる話し合いをしている。またOJTなどの活用、母体施設の研修会、県グループホーム連絡会の勉強会、ミーティング時のプチ勉強会など学習の機会を多く作っている。		
11	20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し管理者間の交流及び職員同士の交流も同時に行っている。また、更なるサービスの向上を目的に他のホーム見学も行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用者に対しては、希望があれば一日ホームで過ごしてもらっている。その際には利用者の戸惑いを少なくするため、職員は事前に情報を把握し共有している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	落ち着きが感じられる日常生活にあっても、細心の注意を払い、かつ隔たりがないよう、付かず離れずの関係で支援している。役割は自発的に分担され、率先行動なのでお互いを尊重しあいながら助け合いの精神で和気あいあいと行われている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時に本人の暮らしへの意向・希望を聞き取りしている。本人から確認が困難なときは、家族も含め「その人らしさ」を前提に検討を進めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は個別的に立てられている。「出来ることは奪わない」というホームの理念が介護計画の中に活かされている。必要時には主治医の意見も確認し、自立支援に向けた介護計画の立案を行っている。		
16	37	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には月1回の見直しを行っている。状況の変化が生じた場合には、その場で確認し、対策をたてきちんと皆で実施対応できるよう工夫している。	○	状況の変化に迅速な対応と計画の見直しをおこなっている。今後はきめ細かな気づきや状況の把握、工夫した内容を記録に残していくことが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者がその力を落とさないように維持するための社会資源を提供しながら支援を行っている。外出・外泊支援や家族のホーム宿泊など状況に応じて柔軟に対応している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定は本人・家族の意思で選択している。受診時には必要に応じて職員も同行し適切な健康管理が行えるよう医師からアドバイスを受けるなど協力を得ている。	○	体調管理については家族を含めて安心できるよう医療機関と日常的な相談・連携がとれるような馴染みの関係作りを今後期待したい。
19	47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について入居時に家族と話し合い、意思確認を行っている。	○	入居時の話し合いの中できちんと確認したことを同意書の形で残せるように様式を準備中である。終末期への対応や方針を、学習会で深め、かかりつけ医との連携、方針の共有をさらに高めてほしい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報関連書類は厳重に管理保管されている。明るい日射しのホーム内にあっても、洗濯干し場や風呂場、各個室には樹木やルーバーが設置され、プライバシー保護の配慮をしている。		
21	52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が生まれ故郷の敬老会や行事への参加希望があれば快く対応している。日頃から、その気になるような意欲的環境を心がけ整備し、模索することで残存する能力の維持に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは買出し、下ごしらえ、調理、片付けなど職員と共に自主的に行っている。また、庭で採れた野菜類も食卓に並ぶ事で調理に参加しない男性がたも食事の楽しみを共にしている。	○	食事中に交わす会話の工夫がほしい。食べて終わりではなく、会話を交わすことで家庭的な団欒を演出し、更に楽しい温もりのある食事時間になるよう工夫していほしい。
23	57	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にあわせて入浴を行っている。残存能力発揮の視点から時間に余裕を持たせて支援している。また入浴が苦手な入居者には、信頼されている職員が支援している。	○	現在は職員体制上、日中の入浴に限られているが、不眠がちな入居者がいた場合には導眠目的で夕食後の入浴ができるよう調整し、試みることにも期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「活きる力」を理念にも掲げ、どんな方でも活き活きする場面作りをスタッフで支援している。入居者が出来ることを職員が奪うことなく、簡単な作業であっても感謝の気持ち（役割意識）を伝えることを重要視している。	○	生活歴から導かれる楽しみごとをアクセスし、一部の入居者に限らずそれぞれに合った楽しみや役割が引き出せるようにホーム内での工夫がほしい。特に女性の好む楽しみごとの物品を揃えてほしい。
25	61	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により、生まれた地域やなじみの場所へのドライブを頻繁に行っている。外出の要望がない方に対しても外食や買い物をお願いすることで出掛ける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、ほとんど鍵を掛けずに過ごしている。職員は入居者の行動パターンを周知した上で工夫しながら支援をしており、入居者が外に出ても直ぐ呼び止めることなく、見守り支援を行っている。		
27	71	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行い、スタッフ・入居者共に防災・安全への意識付け及び避難誘導などを確認している。災害時には、併設老人保健施設より応援が得られる体制をとっている。	○	防災訓練はマニュアルに沿って行っている。更に入居者への伝達方法を検討して訓練からの学びや課題が明確になるよう記録していくことが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量チェックを行い記録することで一人ひとりの栄養状態を把握している。健康上管理が必要な方には個別に尿量チェックや毎日の体重測定を行っている。	○	法人の管理栄養士と連携して、栄養・カロリー等のアドバイスを受けているが、自家菜園からの産物を利用したときには食材が偏りがちになるので、単調なメニューにならないよう工夫と改善が望まれる。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはひとりでも、思い思いの人数でもゆったりと寛げるテレビ談話室、畳間、ソファなどが設えてあり、それぞれの場所で安心して過ごしている。どの角度からも自然を感じるホームの設計は入居者に潤いと安らぎを与えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や日常品は家庭から使い慣れたものを持ってきてもらっている。部屋作りは本人の意向を最大限に尊守し、家族とスタッフが協力して整備している。馴染みの茶碗、家族の写真、自由なかざりつけなど、各個室は安らぎのあるマイホームとなっている。		